

ましみずの里

No. 12
R2. 10. 7
校長
海老洋一

～自ら学び ともに伸びる～ 自ら考え表現し合い・自ら開きわかり合い・自ら挑み高め合う子どもを育てます



被爆ピアノのスクールコンサート 10/5

校長の話より

今年の高揃小学校のスクールコンサートは、被爆ピアノの演奏会です。みなさん、「被爆」って知っていますか？それは、戦争で原子爆弾が落とされると、その爆弾から出る、核分裂による熱風と爆風で、町にある全ての建物や樹木などが焼け崩れ、溶け、さらにそこに住んでいるたくさんの人の命を奪ってしまう、恐ろしい被害を受けること言います。では、世界中でそのような被害を受けたことがある国や市を知っていますか？実は、日本の広島市と長崎市です。今から75年前、広島は8月6日の午前8時15分、長崎は8月9日の午前11時2分。日本と戦争をしていた国から原子爆弾を落とされて、たった1発で、その町全体が焼かれ、一瞬にして広島は14万人以上、長崎は7万人以上のたくさんの命が奪われてしまいました。この被爆ピアノは、広島市で被爆したのですが、奇跡的に焼け残り、大きく壊れることはなかったピアノなのです。そしてこのピアノの持ち主は、何とかして少しでも、元通りの音が出るピアノにもどしたい、復活させたいと考えたそうです。そこで、この持ち主は、調律師の矢



川さんという方に修理と調律をお願いしました。そして矢川さんは、自分で運転するトラックで全国を回って、このピアノの音色を届けています。演奏してくださる方は、近藤あゆらさんという、天童市干布にお住いのピアニストです。みなさんには、近藤さんが演奏してくださる曲を通して、このピアノの音色を聞いてほしいのですが、ただ聞くのではありません。考えながら聞いてほしいのです。何を考えてほしいのかということそれは、「平和とは何か？」ということ。別の言い方をすると、「戦争のない、日本や全世界が、みんなで平和な世の中を続けていくために、自分はこれ

から、何を考えていかなければいけないのか？」ということ。最後に、今年の8月6日、広島で行われた平和祈念式典で、広島市の6年生、大森さんと長倉さんは次のように話していました。みなさんが平和について考えていく、ヒントにしてください。被爆ピアノの音色、心に刻みましよう。

「あのようなことは、二度と起きてはならない。」

広島を復興させた被爆者の力強いこの言葉は、私たちの心にずっと生き続けます。人間の手によって作られた核兵器をなくすのに必要なのは、私たち人間の意思です。私たちの未来に、核兵器は必要ありません。私たちは、互いに認め合う、優しい心をもち続けます。私たちは、相手の思いに寄り添い、笑顔で暮らせる平和な未来を築きます。被爆地広島で育つ私たちは、当時の人々があきらめず、つないでくださった希望を未来へとつないでいきます。

児童の感想とお礼の言葉 5年S・S

原子爆弾が投下されて、その中で奇跡的に焼け残ったピアノが今日、私たちに素敵な音色を聞かせてくれました。今から75年前の出来事ですが、私達も日本人として戦争のことを知らなければいけないと思っています。今生きている、この当たり前前の日常が、どんなに幸せなのかを理解して、毎日を大切にしなければいけません。そして一人一人が「戦争を起こしたくない、二度と起こらないようにしたい」という思いを忘れないでいたら、戦争という残酷なことは起こらないと思います。今日は、ありがとうございました。

保護者の皆様へ ～聞いてみませんか？～

本校では感染拡大防止のため、保護者の皆様には参加をご遠慮いただきましたが、10月11日（日）午前と午後、本地区の願行寺さんで、本校と同じ被爆ピアノコンサートが開催されます。興味のある方は、下記まで、お問い合わせをお願いいたします。

問い合わせ先：願行寺（菅生さん）電話 655-3218

住所：高揃北 130

菅生さんは、本校PTA副会長を務めてくださっています。